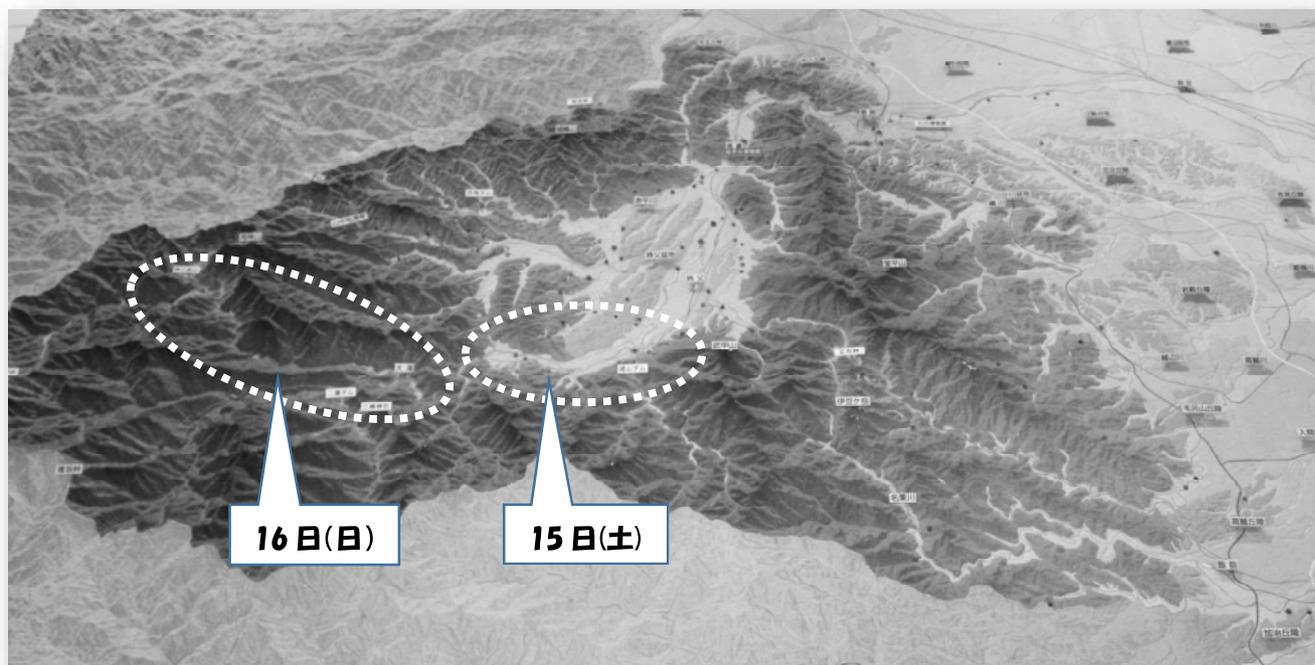


放送大学埼玉学習センター 秩父ジオパーク・ボランティアガイド養成講座 2014・11/15・16



大地の守人を育てるジオ学習の聖地



盆地を取り巻く山

- 三波川帯 (約 8500 万年～6500 万年前)
- 秩父帯 (約 2 億年～1.5 億年前)
- マグマ上昇 (約 500 万年前)
- 山中白亜系 (約 1.3 億年～1 億年前)
- 四万十帯 (約 1 億年～6500 万年前)

盆地の中

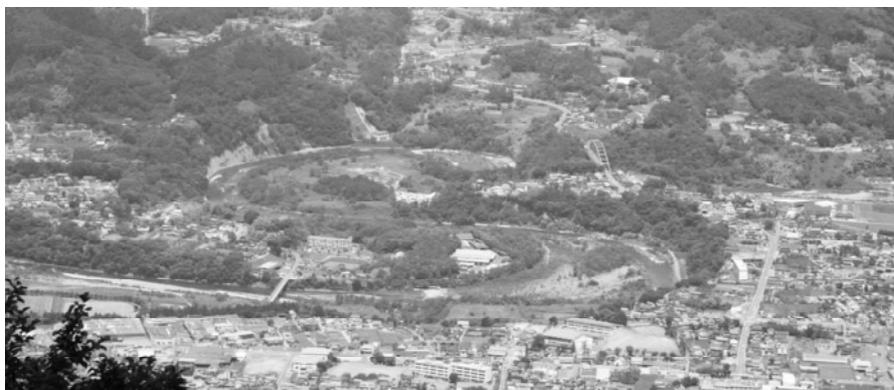
- 新第三系・第四系 (約 1500 万年～)



秩父まるごとジオパーク推進協議会(秩父市産業観光部観光課)
〒368-0033 秩父市野坂町 1-16-15 秩父観光情報館2階
Tel.0494-25-5209 fax.0494-27-2627

11. 15(土)「盆地の南西隅・新第三紀と中生代ジュラ紀の地層の境界」

巴川の「穿入蛇行」



地盤が固くない平野部を流れる自然の川は蛇行します。

巴川は、その蛇行が、固い岩盤になっても浸食し続けてできたもので、穿入蛇行と呼ばれる。

石灰岩の崖と札所二十八番 橋立堂

武甲山の西の端、石灰岩体の崖(約80m)、崖下の火山噴出物からなる石(緑色岩)はもろく浸食され、橋立川が浸食し、石灰岩は岩陰をつくっている。

岩陰は、縄文時代から古墳時代に人が住んだ遺跡。

鍾乳洞は縦穴で、下から入って上に出てくる。

埼玉県では唯一の観光洞である。大正5年には、盛岡高等農林学校の学生だった宮沢賢治が訪れている。

札所二十八番の本尊は馬頭観世音、鎌倉時代作。



浦山歴史民俗資料館

浦山川の谷にあった浦山村は、大半がダム湖底に沈んだ。資料館では、この村の歴史を伝えている。ここの獅子舞は奥多摩地方のものと類似し、この谷の奥の山を越えて東京都と交流があったことがうかがえる。ジオパーク秩父を普及する展示も行われている。

浦山ダム (約2億年前の山と1500万年前の盆地の境界)

盆地南側の深いV字谷をせきとめ平成11年(1999)完成。全国で2番目に高い(156m)。

ダムの機能などを展示する体内ギャラリー等が設けられ、親しみやすい造りになっている。

秩父盆地を南から眺めるポイントで、尾田蒔丘陵や北の城峯山、東の美の山が望める。



若御子断層洞

盆地を取り巻く秩父帯の山と盆地内の新第三紀の地層の境にできた断層の割れ目が風化・浸食され、洞窟になっている。

清雲寺

応安3年(1446)に植えられ
樹齢 570 年近い枝垂桜で
知られる。



昼食 民宿「山宝」 0494-54-1124

白川橋

上流(秩父帯)はV字谷



下流(新第三紀)は河成段丘のある広い川



上流の豊富な木材は、流れがゆるやかになるこの場所で筏に組まれて江戸へ向かった。
平賀源内は、鉱山事業で失敗したあと、ここで木炭を運び出す「荒川通船」事業を起こした。

贅川宿

贅川は、甲州・信州への街道の宿場としてにぎわったところで古い町並みを残している。
昔から“縁側のきれいなところ”と言われてきた。

秋には「縁側展(今年は11月8,9日)」が催され、絵画や写真などが飾られ にぎわう。



11. 16 (日) 「盆地を取り巻く山の地質と暮らし(鉱山・薪炭業)」

2 億年前の大変動による 山塊

奥秩父の山は、約2億年前のプレート移動によってこの地に押し寄せてきたもので、南の海のサンゴ礁や海底火山などの堆積物でできている。サンゴは石灰岩となり、放散虫はチャートになった。陰しい地形は人の手をはばみ、中津川地域には原始の森が残っている。谷沿いのカエデは見事な紅葉となり多くの人を癒し、今 マーブルのお菓子や飲み物づくりも始まっている。日本のカエデは27種類あると言われるが、秩父には21種類が見られる。

ジオ・一口辞典 「秩父古生層」から「秩父帯」へ

秩父の地層は明治の初めから研究され、この地の地層は「秩父古生層」と名づけられた。全国の同時代の地層に使われたが、研究の進展により、古生代の地層がプレート移動によって、中生代のジュラ紀にここに到着したものとなった。現在は「秩父帯」と呼ばれます。

神庭洞窟

国道140号の対岸に見える石灰岩の洞窟。縄文土器や古墳時代の壺・奈良平安時代の須恵器が出土。動物の骨片も多く、居住地というより狩猟の際のキャンプ地としての役割を果たしていたと考えられる。



大滝歴史民俗資料館

旧大滝村は、荒川を通じて江戸に直結し江戸幕府の「材木蔵」であり「御林山」とされ直轄領だった。明治になって国有林となり林業・薪炭業が長く続いた。

中津川流域には、鉱山で働く人たちの生活があった。



中津川と神流川の出合

出合付近から西は、マグマが上昇(約5~6百万年前)してきた地域、秩父トータル岩・結晶質石灰岩や多種類の金属鉱物が見られる。

出合から右へトンネルをくぐると小倉沢にいたる。昭和30年代には2500人以上もの人が暮らす鉱山街があった。

宿舎・工場・学校跡や鉱石を運搬した索道の櫓も残っている。



屋 食 「こまどり荘」 0494-56-0100

「秩父鉱山」ヒストリー

戦国の世 （荒川源流域）

武田信玄は永禄 12 年(1569 年)に秩父に侵攻、軍資金調達のため金山開発に取り組み、荒川現流域の股の沢・真の沢などで採掘。盛況時には「武田の千かまど」と言われるほど飯場や焼鉱かまどがあったと伝わる。採取した金は十文字峠や雁坂峠を越えて甲州へ運ばれた。

江戸時代 （中津川流域）

慶長 14 年(1609 年)江戸日本橋の土屋六兵衛が中津川の桃の久保金山を開発。明和 2 年(1765 年)には平賀源内が中津川に入って金・銀・銅を発見。名主 幸島家に居住し、自らが設計した家が残っている。

江戸から明治・大正・昭和 （神流川流域）

幸島家当主・喜兵衛は、文政 8 年(1825 年)から約 30 年間にわたり神流川で鉱山開発を行った。明治 43 年(1937 年)柳瀬商工(株)が入り「秩父鉱山」と命名。鉱石は架空索道により小鹿野・吉田を通り秩父鉄道の皆野駅に運ばれた。現在の日室鉱業(株)は、昭和 12 年(1937 年)に柳瀬商工から受け継ぎ、道路建設・送電線・索道の延長など積極的投資を行い、太平洋戦争が終わるまで日本の主要鉱山として活動した。

昭和 44 年 非金属鉱物の開発に取り組み、珪石や結晶質石灰岩の採掘を開始した。

森林科学館と秩父トータル岩



「森林科学館」では、大滝ゆかりの本田静六(日本初の林学博士)や平賀源内、林業と暮らしについての学習ができる。川に下りると鉱物の粒がよく見えるトータル岩がある。白いのは斜長石や石英、黒いのは黒雲母や角閃石。(石英閃緑岩より石英分の多いものをトータル岩)

栃本の関所跡と秩父往還

埼玉と山梨を結ぶ国道140号線は「彩甲斐街道」と呼ばれている。古くは「秩父往還」という武州と甲州を結ぶ街道だった。

戦国時代に武田信玄によって設けられたのが栃本の関所。警固を嚴重にするため、少し下った麻生に加番所も設けられた。



栃本から右へおれると白泰山を越え信州へ、左へいくと雁坂峠を越えて甲州に至る。

ここは、白泰山の尾根から地滑りによってできたなだらかな地形にできた集落。尾根の北側の谷に秩父帯と四万十帯の境界がある。秩父帯の険しい地形に比べ四万十帯の地域はやや穏やかで、杉・檜も植えられ古い街道も四万十帯を通過している。

□ 秩父のジオ・トピックス

―地質・地形と風土―



水不足の段丘面は絹・秩父銘仙を生み出した

盆地内の河川は段丘面より20mも深いところを流れ、どこも水で苦労した。秩父の人々は、水不足の段丘面に桑を植え生糸を作り世界に送り出した。

「秩父銘仙」は、2013年12月26日 国の伝統工芸品に指定された。「ちちぶ銘仙館」では「秩父銘仙」の歴史が展示され、「織」「型染」「藍染」の体験ができる。



太田・蒔田は盆地の米どころ

上流を切られた浅い河川が田をうるおしている。太田は森鷗外の「舞姫」のモデルと言われる武島務や日本で最初に帝王切開手術を行った伊古田純道を輩出。

蒔田の谷には、長屋門のある農家や御田植祭りなど、米どころならではの歴史が伝わる。



盆地特有の気候「空凍み」とつるし柿

空凍み(からっちみ)は冬寒く乾燥している盆地の気候をあらわす言葉。「つるし柿」は、寒く乾燥した秩父の空気の中で作られる特産物。

盆地の中には冷気がたまり、上層には前日の暖気が残し、上にいくほど気温が上がる逆転層が見られ霧が発生する。



秩父帯の険しい地形ゆえに残された自然

奥秩父の山には寒冷気候を語るシラビソ・ブナ・モミ・ツガ・カバノキやカエデ類が多い。林間にはフクジュソウ・ザゼンソウもみられる。ニホンカモシカ・チチブイワナなど多くの動物が生息している。

杉や檜を植えられなかった険しい地形に残ったカエデ。

今 メープルシロップを生み、サイダーやお菓子になって登場。



秩父盆地は東西の狭間

武田氏と北条氏の争いの場だった。「信玄焼」という言葉は、奥秩父の山を越えてきた武田軍の侵攻によって神社仏閣が焼かれた歴史を伝えている。

小鹿野町の光源院は甲州の永晶院(山梨市)の末寺。

「彼の寺中にて乱暴狼藉すべからず」の高札が今も残る。

放送大学 埼玉学習センター

〒330-0853 さいたま市大宮区錦町 682-2

大宮情報文化センター内

TEL 048-650-2611

<http://www.ouj.ac.jp/center/saitama/>